

編集後記

内外において、COVID-19に加え大事件が頻発し、落ち着かない昨今です。どこのリーダーもどこに進めばいいのかを示す明確な方向性を打ち出すことができていないようです。今こそ、個々の考え方や生き方が試されているときかもしれません。

さて、日本体育大学紀要第51巻ができ上がりました。51巻には原著論文9編、研究資料3編、短報1編、そして研究紹介8編が掲載されています。研究紹介はスタートした2021年には3～5編程度が集まれば大成功と予想していましたが、今回は8編となりました。一方、原著論文や研究資料は徐々に増えているとはいえ、本学の陣容（人容？）からすれば、少なくともこの2倍はあってもよく、外部の学術誌に投稿される編数を考慮してもまだまだ少ないようです。

私が講師になったころ、先輩や恩師から次のような叱咤のメッセージをいただきました。最近の大学教員の多忙さは百も承知していますが、先生方や院生にはさらなる奮起を期待します。なお、S先生は「私は実験や計算をして考え、論文を書いているときが楽しい。掲載された論文はゴミのようなものだ。」と言われていましたが、私はその域には到達できそうもありません。

- ・「論文や発表をして、研究は一区切り」
- ・「登山は8合目から苦しい」、「論文の8割の完成はまだ5割と心得よ」
- ・「研究（論文執筆、学会発表、研究費申請）は大学教員の義務」

通常、学術誌では投稿された論文に対して査読が行われますが、ここで様々な問題が生じます。特に、経験が少ない若手や中堅の研究者にとっては（実は経験の多いベテランでも対応に苦労するのですが）、この査読をクリアできず、再提出をあきらめたり、以前に経験した査読がトラウマになって論文を書かない、投稿しない場合が多いように思います。院生、若手あるいは中堅の先生方のために査読に関する経験知（実践知）も下記に示しておきます。

- ・査読者は忙しいので、回答はできるだけ丁寧にする。
- ・査読者も人間であり、間違えることもある。
- ・不採択になったときの対応
 - ①査読意見をよく吟味し、自分の間違いや不備があれば、修正する。
 - ②多少の時間がかかっても、修正後に再投稿か、別の学術誌へ投稿する。
 - ③反論、異議申し立てをして再投稿する。

（紀要委員会委員長）

紀要委員会委員長

阿 江 通 良

紀要委員会委員（五十音順）

石上 秀昭	木村 直人	近藤 智靖	今野 哲
齊藤多江子	田口 紘子	中島 美雪	南部さおり
西村 拓也	波多腰克晃	服部 辰広	堀尾 哲也
八木 沢誠	横田 裕行		

日本体育大学紀要 Vol. 51 2022年8月

2022年8月25日印刷
2022年8月30日発行（非売品）

編 集 紀 要 委 員 会

発 行 者 日 本 体 育 大 学

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1

TEL (03) 5706-0907 FAX (03) 5706-0913

E-mail kiyou@nittai.ac.jp

印 刷 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL (075) 441-3155